

「オプトインによる共助型分散社会の実現（命を守るデジタル防災）」（福島県会津若松市）

デジタル技術を活用した市民生活の利便性向上及びICT産業集積を同時に推進

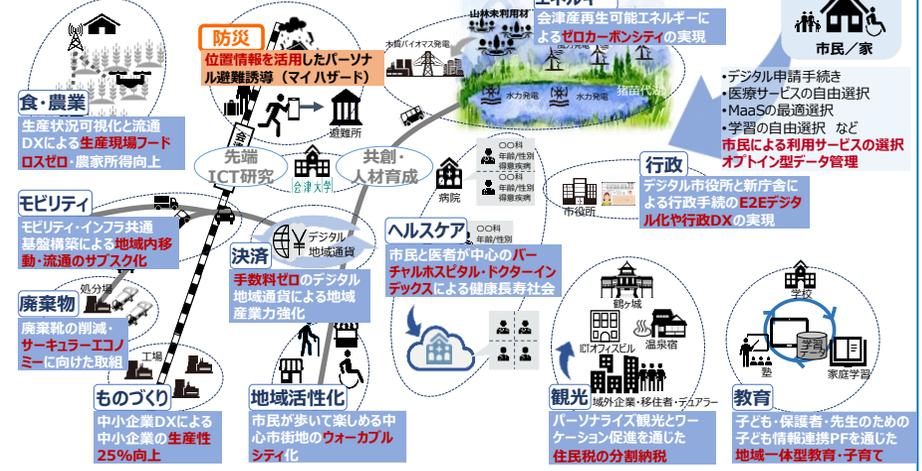
『スマートシティ会津若松』の発展・深化を図るため、本市の伝統・歴史・文化・景観などを生かしながらデジタルを活用することで、利便性・持続性等を向上させるブラウンフィールド型のスマートシティを推進。

目標（KPI）

計画全体防災	現状（2020年）	2030年目標値
・地域ID登録者数	: 12,000ID	→ 50,000ID
・公示地価の伸び率	: 地方平均比+4%	→ +7%
・自治体の経常収支比率	: 90.7%	→ 90%未満
・デジタル防災利用者数	: -	→ 50,000ID

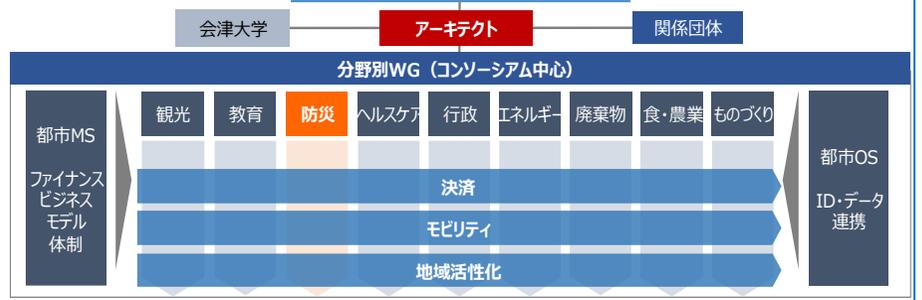
実行計画

スーパーシティ構想の全体概要



12の分野において、多様な利用者を意識した包括的かつ包摂的なデジタル化を推進。また都市OS上での分野間連携を前提に推進。

体制

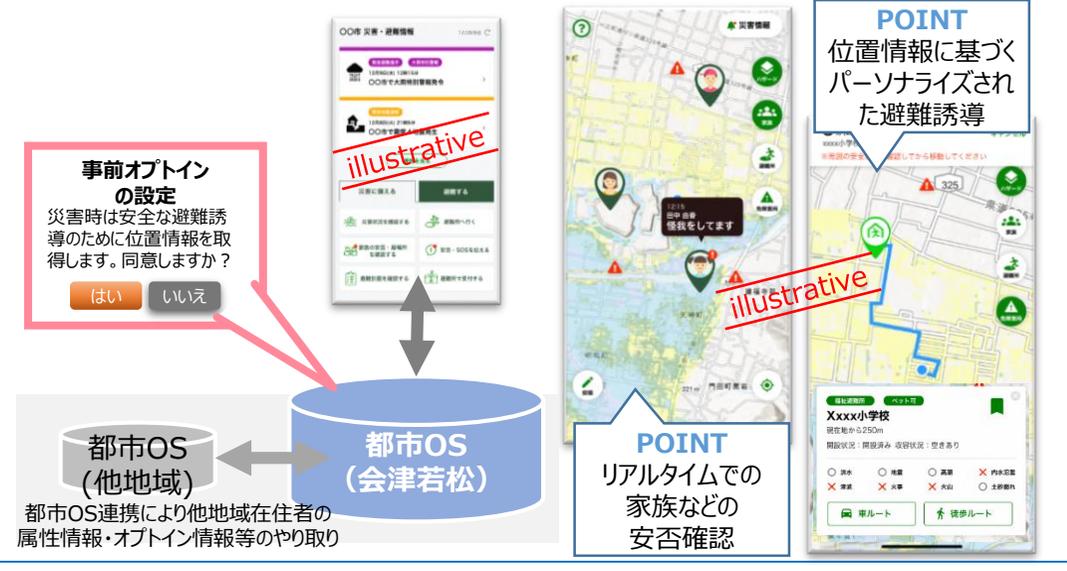


それぞれの分野において、官民の責任者を立てて、分野間連携しつつ同時並行での地域DXを推進。

取組内容（防災分野）

命を守るデジタル防災（マイハザード）事業

オプトインに基づいて取得した市民の属性情報（住所や家族情報）や位置情報を活用することで、情報提供に留まらない避難誘導やリアルタイムな家族安否確認サービスなどのパーソナライズされた防災サービス（マイハザード）を都市OS上で提供



スケジュール（防災分野）

2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度以降
マイハザード基本サービス構築	FBIに基づく機能改修	・継続的なマイハザードサービス提供 ・他分野との連携による機能拡充	災害時におけるモビリティ連携 ※避難所物資ロジスティクス	災害時におけるエネルギー連携 ※災害時の自立エネルギー供給
都市OS連携	災害時における行政連携 ※要支援者情報を活用した避難誘導	災害時における医療連携 ※怪我人の病院搬送連携	災害時におけるモビリティ連携 ※避難所物資ロジスティクス	災害時におけるエネルギー連携 ※災害時の自立エネルギー供給